

高齢者支援対策に関する提言書

令和4年3月

平泉町議会 総務教民常任委員会

高齢者支援対策に関する提言

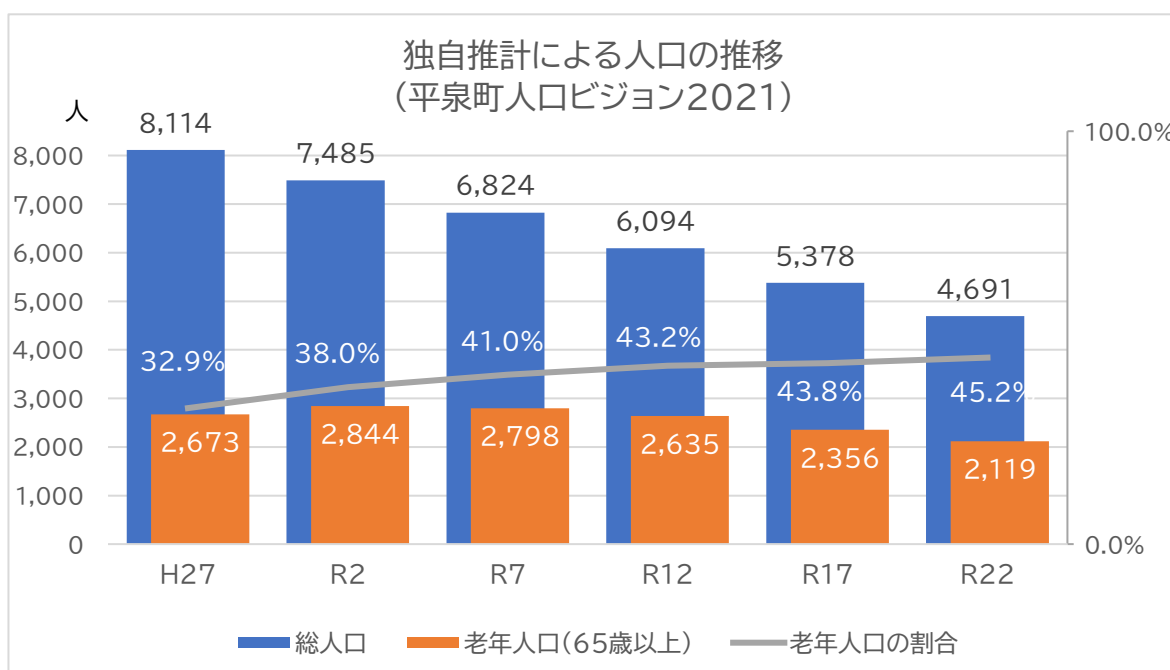
1. はじめに

我が国の高齢化率は2021年までに29%を超え、今後も上昇の一途をたどると考えられています。そのような状況下において、高齢者支援対策は急務であり、我が国においても介護が必要となった高齢者が住み慣れた地域や住まいで尊厳ある自立した生活を送ることができるよう福祉サービスの確立に取り組んでいます。

こうした背景を踏まえ、本町の実情を検証しながら様々な課題解決に向け、本町高齢者が誰一人取り残されることなく、健康で尊厳ある生活を送ることができる事を希求し、それら支える側にとっても安心社会の実現の一助となるよう提言します。

2. 本町を取り巻く状況と課題

本町の高齢化率は38.0%(令和2年10月1日現在)であり、今後上昇し続け、2040年には全国平均35.2%に対して45.2%という推計が出ています。このまま高齢者人口が増加し、生産年齢人口が減少していくと、医療・介護分野への負担がさらに増え続け、それを担う労働者も減少の一途をたどってしまうことから、医療・介護サービスが機能しなくなってしまう恐れがあります。そのようなことを起こさないために、これから訪れる超高齢社会に備え、高齢者福祉計画の理念である「支え合う地域の中で高齢者一人ひとりが自分らしく輝くまち」を目指し、みんなで支え合い、介護予防活動に多角的な観点を持って取り組んでいくことが大切です。



3. 調査及び検討の経過

(1) 所管事務調査

年月日	会 議
令和2年6月12日	常任委員会、所管事務調査 ・高齢者支援対策（交通弱者対策を含む）を調査し、提言へつなげることを確認。 ・調査事項の発議(案)協議
令和2年8月25日	常任委員会 ・人口ビジョン、高齢者の健康増進、交通弱者の買い物支援について協議
令和2年9月11日	常任委員会、所管事務調査 ・人口ビジョン、町内公共交通の状況、高齢者の地域健康増進事業について協議 ・先進地事例について各委員調査報告
令和2年12月14日	常任委員会、所管事務調査 ・先進地事例検討、交通弱者の買い物支援について協議 ・提言に向けた行政視察先の選定
令和3年3月10日	常任委員会、所管事務調査 ・高齢者の健康増進について協議 ・町高齢者福祉計画(R3～R7年度)について協議
令和3年6月11日	常任委員会、所管事務調査 ・町内公共交通の状況、交通弱者について協議 ・高齢者の買い物支援について協議 ・提言に向けた懇談団体の選定
令和3年9月9日	常任委員会、所管事務調査 ・町内公共交通の状況、交通弱者について協議 ・高齢者支援対策について協議
令和3年10月22日	常任委員会 ・町内公共交通の状況、交通弱者について協議 ・高齢者支援対策について協議 ・提言に向け、団体との懇談内容について協議
令和3年12月10日	常任委員会、所管事務調査 ・高齢者支援対策について協議
令和4年2月24日	常任委員会 ・高齢者支援対策について協議 ・調査報告(案)、提言(案)の検討

年月日	会 議
令和4年3月9日	常任委員会、所管事務調査 ・高齢者支援対策について協議 ・調査報告(案)、提言(案)の検討

(2) 団体との懇談会

平泉町内では、介護予防・日常生活支援総合事業として12団体のサービス事業団体が活動しています。その中でも、先進的な取り組みを実施している「14区地域支え愛の会」の取り組みについて、懇談を持ち意見交換を行いました。

- 【開催日時】 令和3年12月6日(月)
 【会 場】 14区公民館
 【参加者】 14区地域支え愛の会 8名
 (代表 小野寺安夫 氏)
 高橋拓生議長
 総務教民常任委員 6名



【事業内容】

介護予防、生活支援サービス事業
 (通所型サービスB)

- ① いきいき百歳体操
- ② 買い物送迎支援
- ③ ふれあいサロン共催
- ④ 高齢者の見守り



買い物送迎支援については、①高齢による運転免許証の返還に伴う交通の不便、②ひとり暮らし高齢者対応、③行政区内の店舗閉店に伴い、平成28年3月に区長、民生委員、有志で相談し、「買物送迎お手伝いボランティア」を試行的に実施し、現在の組織に繋がり、買い物送迎100回を超えています。同団体は平成30年に介護予防・高齢者生活支援分野において厚生労働省健老局長優良賞を受賞しています。

活動を通じて、認知症予防やひきこもりの予防、地域でみんなが元気に楽しく過ごしてもらいたい、お互いを見守りにつなげています。「まず、動いてみれば物事が見えてくる」「地域のことは地域が一番よく知っている」と、今では助け合い(共助)が自分たちのやりがい(自助)へとつながっているそうです。

課題は、支援者の固定化・高齢化が進んでいることや、男性と若い方の参加が少ないため、今後の継続に多少の不安があること。また、送迎時の事故の不安が挙げられています。

◆ 委員会所見

地域住民が主体的に参画できる仕組みづくりが重要であり、住み慣れた地で健康で楽しく支え合い暮らし続けるため、地域住民に寄り添った行政の支援が必要です。

(3) 平泉町議会議員に対する政策提言(案)の説明

令和4年2月28日及び令和4年3月16日に、提言(案)及び発議案を説明しました。

4. 提言

(1) 地域住民の主体性を尊重した支援

① 相談体制の確立

過剰な支援・補助は地域の主体性やつながりを阻害することが懸念されるため、今後、地域が新たな組織や集いの場の構築を希望した際の相談・アドバイスの体制を充実させること。

② 既存の地域組織へのヒアリング

町内各地区の地域組織へのヒアリングを密に行い、当該組織の目的と課題を明らかにし、後の地域組織の構築に資するものとすべきであります。

(2) 既存事業の有効活用と機会の充実

① 既存事業の周知

高齢者のひきこもりや認知症を予防するため、当町の既存の生活支援サービス事業と各種介護予防事業が、より町民に周知されるよう広報活動を充実させること。

② 高齢者の活躍できる環境づくり

一般介護予防事業を高齢者の交流の場とするだけに留めず、これまで高齢者が培ってきた知識や経験を地域課題や行政の問題解決に活かせる場とし、町全体との連帯感を深められるような事業とすること。

③ コミュニティバスの活用推進

令和3年6月から実証実験が開始された平泉町コミュニティバスの実証分析を早急に進め、公共交通空白地域の買い物支援を含めた町民ニーズに沿った形となるよう努めること。

(3) 高齢者の自立と認知症予防への取り組み

① 世代間交流の推進

「百歳体操」「脳いきいき教室」等の取り組みの他に積極的に児童・生徒と高齢者が交流できる「生きがい活動事業(仮称)」を設けること。

② 高齢者の自立に向けたサポート

高齢者の見守り体制と町内のサポート施設の充実を図り、高齢者の自立(社会参画の促進)のきっかけを提供すること。

平泉町議会 総務教民常任委員会

委員長；水室裕史

副委員長；真籠光幸

委員；佐藤孝悟、阿部圭二、猪岡須夫、稲葉 正